

2014 年度 来場者の声

東京会場 1

◆来場者①

本会では、実務家や法科大学院の教授、法科大学院生・卒業生によるお話を通して、法科大学院を詳しく知ることができました。そして、法科大学院について詳しく知ること、法科大学院に対するイメージが変わりました。

私は、法科大学院生・卒業生の方からなかなかお話を聞く機会がなかったため、法科大学院ではとにかく司法試験の勉強をするというイメージを持っていたのですが、「法科大学院がわかる会」で法科大学院生や卒業生の方のお話を聞いて、法科大学院では実務にも通じるような学修をしていたり、学生が自分たちでゼミを組んで議論をしていることを知り、司法試験に向けた勉強はもちろんのこと、法律家としての人間性の面でも成長できる場所であると感じました。

普段はなかなか法科大学院について詳しく知ることがない中で、本会を通して法科大学院について知ることができ、とても良い機会でした。

◆来場者②

講演会は私にとって大変勉強になるものでした。「法科大学院での勉強はただの知識の勉強にとどまらないで、その知識を生かして仕事ができるレベルの力をつけるためのものだ」というお話が一番印象深く、法律を勉強する者として私自身も心に留めていきたいと思いました。法律を学ぶときに単なる知識の暗記ではなく、なぜそうなるのかを考えながら学ぶのは司法試験に限らず普段の法律の勉強全般においても大切なことであり、そういった論理の考察や討論の力を磨けるのがロースクールの魅力なのかなと感じました。

講演会後の個別相談会では各大学院の方や実務家の方にお話を伺える時間があり、参加できて良かったなと感じました。また、国家公務員志望でも、法科大学院に通ってからの方が入りやすいし、現に法科大学院卒業後に国家公務員になる人も少なからずいるということを知って聞いて、そういう進路もあるんだなと、少し視野が広がりました。

◆来場者③

先日のロースクールキャラバンにおいて、実務家の方々の講演会、個別説明会、ロースク

ールの授業見学の3点について、大変有意義な情報を得ることができました。

まず、実務家の方々の講演会では、法曹という仕事についての魅力をさまざまな視点から述べていたことが大変印象的でした。特に検察、裁判官、弁護士の3つの職を経験なさった方の話では、どの仕事も魅力のあるものだということを聞くことができ、これから自分が法曹を目指していく上で、さらなるモチベーションとなりました。

また、個別説明会では、私が知りたかった奨学金の具体的な制度、大学院生の生活や卒業後の進路状況について、どの大学院関係者の方も丁寧に教えてくれました。以前から大学院への進学は考えていましたが、今回の個別説明会を通じて、どの大学院を受験しようかについて具体的に考えることができました。

次にロースクールの授業見学では、次の点で学部授業とは大きく異なり、大変魅力を感じました。ロースクールの授業では、先生が基本的な知識を一方的に伝えるものではなく、学生に対してたくさんの高度な質問がなされていて、双方向の授業が行われていたことに、大変驚きました。それに加えて、学生の方の受け答えも、しっかりしていて、学生のレベルが高かったことが伝わって来て、大変刺激を受けました。授業見学を通じて、大学院の受験校を決める上で、大変有益な情報を得ることができました。

最後に、今回、ロースクールキャラバンを開催して頂いた大学院関係者、生徒の皆様に心から感謝申し上げます。

◆来場者④

今回のロースクールキャラバンに参加したきっかけは、ロースクールの授業見学ができる点、及び、法曹の方々のお話を聞ける点に興味を惹かれた事でした。

実際に講義を受けてみて感じたのは、内容の密度の濃さでした。主に大教室で行われる学部の講義と違い、少人数でソクラテスメソッドを用いて行われるロースクールの講義は、知識の定着や思考力の養成により一層役立つものであると感じました。さらに、質問のレベルの高さや解答の素早さ、的確さからは学生の皆様が日頃の学習や予習に力を入れていることが窺え、私も是非ここで学んでみたいと強く思いました。

法曹の方々の講演会、及び、法科大学院の教授や学生の方も交えた懇談会も、将来を考える上で大変役立ちました。実際の職務内容や職場環境について直接聞くことができるのみならず、どのような信念をもって職務にあたっているのかお話いただいた事が、特に印象に残っています。中でも、法曹は「人の運命に大きな影響を与える仕事である」というお言葉には大変心を動かされました。その後の質疑応答の際にも、一つの質問に対してベテランの方から若手の方までそれぞれの立場から詳しく丁寧に回答していただき、法曹を目指す上での不安や疑問の解消に有益な情報を得る事ができました。

最後になりますが、このような機会を与えて下さった法科大学院協会及び関係者の方々に、心より感謝申し上げます。

◆来場者⑤

先日のロースクールキャラバンにおいて、授業見学、そして法科大学院個別説明会について関心を持ったため、参加させていただきました。

まず、授業見学について。今まで大学の学部で受けてきた授業は、およそ、先生方が教えて下さる法律の基本的な知識を、受け身的に学ぶものでした。たしかに、学部での授業は分かりやすいものではありましたが、その進度・深度、共に少なからず物足りなさを感じておりました。反面、今回見学させていただいた授業は、学生が発言する機会が多い、双方向型の授業となっている点が大きく異なり、大変驚きました。加えて、学生の皆さんから、予習にかなり時間を割いているとお話もあったように大変レベルが高く、先生への返答も素早くて確でした。法科大学院が、より深く・充実した教育を受けられる環境であることを体験できる、貴重な機会でした。

次に、個別説明会について。法科大学院への進学は考えているものの、それぞれ大学院ごとの差として把握できていたのは、司法試験合格者の人数や合格率くらいのものであり、どの大学院を目指そうかと悩んでおりました。今回の個別説明会を通して、各大学院の力を入れていらっしゃる点や、実務家となった後の就職事情を中心に、さまざまな特色を教授や卒業生などの方から直接分かりやすく教えていただきました。これにより、各大学院の魅力を知ることができ、今後の志望校を決定するのに役立つ、大変有用な情報を得ることができました。

今回のロースクールキャラバンを通して、法科大学院入学後の具体像を知ることができ、また、その新たな魅力を発見することができました。このような場を設けて下さった法科大学院協会の皆様、そして、大学院関係者・学生の皆様方には心から感謝申し上げます。

北海道会場

◆来場者①

私は法科大学院への進学を希望しており、今回のロースクールキャラバンに参加させていただきました。ロースクールキャラバンでは、実際に、学部よりも一歩も二歩も踏み込んだ内容の講義を受け、実務家の先生から書籍では学べない現実の問題のご提示をいただくことができました。以前から大学院の先輩にお話を伺う機会にはありましたが、今回の体験のおかげで大学院進学を身を持って実感し、その魅力に触れることができました。今回学んだことを忘れず、今できることに尽力したいと思います。

◆来場者②

平成 26 年 11 月 29 日（土）、北海道大学にて「法科大学院がわかる会」が開催されました。

北海道に在る法科大学院二校の関係者の方々のご協力の下、当日は、法科大学院に興味を示す多くの大学生が参加し、大変活気と実りのある時間を過ごすことができました。

第 1 部では、北海道大学法科大学院で教鞭をとられる実務家の先生のお話を聴かせて頂き、その後は、同大学院で日本国憲法を教えていらっしゃる佐々木教授の模擬授業を受講致しました。

弁護士を目指す私にとって、実務家である先生のお話しする弁護士の仕事内容について、大変興味深く拝聴しました。また、憲法の模擬授業は、「違憲審査基準」における知識を再度確認し、また、新たな気づきを得ることができ、憲法に対する興味がより一層強いものとなりました。

続いて第 2 部では、法科大学院二校の教授の方々と学生、そして両校出身の弁護士の先生方を交えた討論会が行われました。

大学生のうちから自主的にこのような会に参加し、司法試験の合格、そしてその先の法曹としての活躍を目標として、教授の方や先輩方に、具体的な勉強方法や大学院に入学した際の時間の使い方などを質問する参加者の姿は、法曹界を目指す希望に満ち、熱意に溢れていました。

学問を「理解」するには、まずは基礎知識の定着が要であるように思います。その基礎知識の定着は、その学問の専門家である教授の下で指導を受け、仲間と議論しながら、繰り返し壁にぶつかりつつ修正する作業が必要です。

「今、なぜロースクールで学ぶのか。」

法律学の専門家である教授の下で指導を受け、大学院の仲間と議論しながら成長を遂げていく。特に法曹の養成にはそのような環境が必要だからこそ、「今、ロースクールで学ぶ」のだと思います。その気づきを胸に、これからも大学院で法律学と向き合い、より良い法曹を目指す所存です。この度は、素晴らしい会に参加させて頂き、誠にありがとうございました。

◆来場者③

私は今回のロースクールキャラバンに参加して、一番興味を持ったことは法律実務家の先生による授業でした。学部生活では中々接することのない実務家の方の授業はとても魅力的でした。個人的に付き合いのあるロースクールに通っている先輩の話でも実務家の先生の方の授業はとても面白いと聞いたので、今回のキャラバンで一層その授業を受けてみたいと思いました。

また、学部では大講義室で開かれる授業ですが、ロースクールでは割と少人数で授業を行っており、先生と学生の距離の近さを感じました。

今回キャラバンに参加してより一層進学に向けて頑張ろうという気になりました。

京都会場

法曹を志望しているため前々から法科大学院を予備試験と並ぶ選択肢の一つとしては考えていたものの、この会に参加するまではあくまで「司法試験を受けるためには入る必要があるところ」という認識しかもっておらず、その教育内容や講義のスタイルなどには全くの無知でした。しかし、今回の講演会を聞いて法科大学院ならではの、実務での活躍をも見据えた授業に魅力を感じました。

さらに第二部では実際に法律家としてご活躍されている方々と直接お話をすることができ、有意義な時間を過ごせました。特に検察官としてご活躍されている方に仕事の内容ややりがいなど、実務の事についていろいろなお話を伺うことができ、勉強に対するモチベーションも上がりました。

名古屋会場

今回、法科大学院の列島横断リレーでの講演及びそのあとの質問課会に参加して改めて自分の進路の一つとして法科大学院を意識する、いいきっかけになったと考えています。私は司法試験を受験したいと考えており、予備試験に向けて勉強することが一番良い方法でないかと考えていましたが、法科大学院に進学することによってもたらされるメリットを聞いたことで法科大学院について考え直しました。私が最も法科大学院に魅力を感じた点は、模擬ではありますが実際に裁判の過程を練習できるといった実務向けの演習が十分行える点です。また、学内だけではなく学外でも実際に弁護士事務所などで働けるエクスターンシップなど多くの機会が設けられている点が優れていると感じました。また、再び高校と同じくクラス単位に戻るのもある意味で良いかなと感じています。というのも、同じ志を持っている人が集まれば、その中で議論を深めることが可能となり、最終的にそれが思考力の向上につながると考えます。これらは自身の法的思考力の向上にもつながると私は考えています。本当に司法試験で試されることを法科大学院でカバーできるので、私はこれからの進路を考えるうえで有力な候補としてこれを残しておきたいと考えています。

大阪会場

◆来場者①

今回、私がこのイベントに参加して、一番興味深かった内容は法科大学院修了の法曹三者の方の講演でした。

そこでは、法曹三者の方からロースクールに入学し、司法試験に向けて勉強していくことがいかに大切であるかを学ぶことができたと思います。例えば、特にロースクールは司法試験という難関試験に合格するためだけに行くのではないこと。ロースクールで出会う仲間や友達と一緒に勉強することで切磋琢磨し、ともに成長していくことの重要性などを学ぶことができました。また、ロースクールでできた仲間とのこのような「繋がり」は将来、法曹としての仕事をしていく上でも非常に大切なものとなることも学ぶことができました。

勉強は一人でするものだという考えが以前までありましたが、今回このようなイベントに参加して、仲間と一緒に切磋琢磨することの重要性を学ぶことができました。だから、ロースクールに進学した際は、共に勉強し司法試験合格はもちろん、その後、法曹として生きていく上でも良い関係を築くことができる仲間を作っていきたいと思いました。

◆来場者②

私は、12月13日土曜日に大阪弁護士会館で行われた「今、なぜロースクールで学ぶのか列島縦断リレー 法科大学院がわかる会」に参加しました。

私は、法科大学院修了の実務家によるパネルディスカッションと実務法曹の方を囲んでの懇談に興味があり、この会に参加しました。

パネルディスカッションで、法科大学院修了の実務家の方が、法科大学院とは様々な考え方があることを様々な人と協力しながら学ぶところ、院生のころは友人と協力しながら勉強した、友人と議論しながら考えを広げた、先生に質問して知識を深めたという経験をとてもしそうに話されるのを聞いて、法科大学院というところは、様々な人や考え方を知りながら、皆と協力して勉強ができる場所なんだとわかりました。自分が法科大学院でどう過ごすかを考えるにあたり、役に立つものばかりでした。とても有益なお話が聞けて良かったです。

実務家との懇談では、検察官の方にお話を聞くことができました。検察官を志望している私としてはまたとない機会でした。検察官の仕事のこと、検察という組織のこと、その難しさや過酷さについてのお話を伺うにつれ、検察官が一層魅力的な仕事になり、検察官を志望する気持ちがより強くなりました。

実際に法科大学院を修了した方、その後実務家になられた方のお話はとても興味深く、そのおかげで、法科大学院に行けば、自分も様々な考え方を学べるし、広い知識を身に着けら

れるし、多くの人と話ができる、実務家になれば社会の役に立てる、責任ある仕事ができるという思いを持つことができ、法科大学院や法曹実務家に対する憧れや希望が広がりました。

この会を開催してくださった方々に感謝申し上げます。

◆来場者③

第一部

第一部では法曹三者の方々に様々なことについてお話を聞くことができました。まず裁判官の方のお話では、裁判官という職業についてお話いただきました。

特別な身分である裁判官という職業の詳しい内容について、自分はほとんど知らなかったのも、とても興味深かったです。任官して五年は単独で判決文をかけないという話はすでに知っていたのですが、複数で案件に取り組む際に、歴に関わらず対等な関係として議論を行うという話は初めて聞いたもので、裁判官の仕事の魅力とその責任の重大さがよくわかりました。

検察官と弁護士の方のお話は、法科大学院での経験についてのお話が強く記憶に残っています。特に弁護士の方のお話で、法曹に関わる職に就く上で重要なことは法律についての知識だけではないのだということを学びました。

パネルディスカッションでは各先生方の法科大学院に入学した経緯とそこで得た経験について聞くことができました。自分にとって驚きだったのは、ほとんどの先生方が、法科大学院に入学する前に他の職業に就いていたということでした。はじめから法曹志望である自分にとって、別の職に就いていながら法曹へ進もうと決心し、実際に進んだ方のお話はとても新鮮でよい刺激となりました。

第二部

第二部では、各先生方とほぼ一対一でお話をすることができました。全体的に、普段の講演会等では聞くことができないお話をしていただきました。自分はまず、組織内弁護士の方々とお話をしたのですが、組織内弁護士になるまでの経緯にはじまり、果てには通常の弁護士との給料体系の違いまで、内部事情をたくさんお話しただけで、組織内弁護士にも興味を持ちました。最後に金融証券調査官の方と一対一でお話しする時間をいただけたのですが、法曹に向けてのアドバイスをたくさんいただけて励みになりました。

全体の感想ですが、法科大学院についてのお話は勿論、そもそも法曹の職業についてのお話を深く深く聞くことができ、より、法曹界に向けての気持ちを高めるよい機会となりました。これを励みにより一層勉強に取り組みたいです。

◆来場者④

私は昔から検察官になりたいという夢を持っており、そのためには法科大学院に進学しなければならないということは分かっていたが、実際に法科大学院とはどんなところなのか、ということについて調べることは、何となく面倒だったために先延ばしにしていた。

しかし、そうそう先延ばしにしていられない時期になってきたこともあり、今回の説明会を機に法科大学院について知りたいと感じ、私は説明会への参加を決めた。

説明会当日のパネルディスカッションや座談会を通して、法科大学院を卒業して法曹になっておられる方から、法科大学院の様々な特色を聞くことができた。

その中でも特に印象深かったことであり、パネリストの方々が共通して主張しておられたことが、法科大学院の「お互いを支え合い、励まし合い、切磋する雰囲気」というものであったように思える。

勉強していると、どうしても辛いときがある。そんなときに、周りの皆が司法試験合格を目指して努力しているという環境に置かれていれば、やはり刺激を受ける。自分も負けたくないと思える。勉強会の開催など、お互いを刺激し合うことで、己をさらに高めることができる場所、それが法科大学院の魅力なのだとひしひしと感ずることができた。

座談会においても、初めて裁判官の方のお話を直接聞いたことで、今までは無かった裁判官という職業への興味が芽生え、また、インハウスローヤーという生き方の面白さを知ることができた。

この経験によって、私のこれからの進路にも、より幅が出たのではないかと思う。

説明会を通して、法科大学院だけでなく、法曹そのものの可能性を新たに自分の中で発見できた、素晴らしい機会となった。

東北会場

◆来場者①

まず、「法科大学院がわかる会」という名前の通り、現在の法科大学院や、その先にある司法試験の制度がよく分かる会だと思いました。この点は、進路で迷っている人や、法律家という職業に興味を持ち始めた人にとって、役立つ内容だったと思います。

しかし僕はそれ以上に、多くの現役法科大学院生や、卒業生である実務家の方々の経験を直に聞けることが、何よりの魅力だと感じました。お話を聞く中で、法律家という仕事や法科大学院という場所のイメージがとても鮮明なものになり、既に進学を決めていた僕も、勉強に対するモチベーションを高めることができました。

「百聞は一見に如かず」とは言いますが、自分の将来を決めるにあたっては、実際に経験してみることが困難である以上、出来るだけ多くの人の経験に触れることが大切だと思います。その意味で、この会は「百聞」を得る機会として大変価値あるものだと感じました。

◆来場者②

今回参加してみて、法科大学院生の生活から東北地方の弁護士業の実態、検察官・裁判官の仕事まで、非常に幅広くお話を聞くことができました。参加するまでは法科大学院についても法曹の仕事についても具体的なイメージをほとんど持てずにいましたが、この催しをきっかけに自分が今後どのように勉強していくか、またどのように進路を選択していくかを考えるようになりました。特に印象に残っているのは、東北地方の若手弁護士の先生方による対談です。どのような思いを持って弁護士という道を選んだのか、主にどのような分野の仕事をしているのかだけではなく、法曹における仕事と家庭の両立について5人の先生方のお話を聞き、様々な働き方を知ることができました。その他にも先生方との懇談会では、明るい雰囲気の中私たちの質問に対し先生方がとても丁寧に答えてくださいました。このように大変貴重で有意義な時間を過ごすことができたので、参加して本当によかったと思いました。

岡山会場

◆来場者①

今回、ロースクールキャラバンに参加させていただいたことで、ロースクール進学という目標、またその後の司法試験合格という目標を、より具体的なものにすることができました。予備試験などの制度もあり、ロースクールに行くことを悩んだ時期もありました。しかし、今回の説明を聞いて、ロースクールの魅力を改めて感じるすることができました。勉強だけでなく模擬裁判や法律相談など、将来のための様々な経験をさせていただけることに惹かれ、ロースクールで学びたいという気持ちが固まりました。そして、ロースクール在学の方のお話を聞くことができ、たいへん参考になりました。

そのほかにも実務家の方のお話など、ためになる話ばかりでした。私が3年生ということもあり、いまさら聞けないと感じていた司法試験のおおまかな内容なども改めて知る事ができました。この説明会に参加させていただいて本当によかったです。

最後になりましたが、このような機会を設けてくださった方々に、心より感謝申し上げます。

◆来場者②

私はこの法科大学院全国キャラバンに参加して、法科大学院ではどのような学習をしているのかについて、より具体的なイメージを持つことができました。法曹実務家の先生方、ロースクール現役学生の方から「法科大学院に入るための入学試験対策」から「法科大学院の授業内容」、「司法試験、予備試験の概要」、「司法試験に合格するための勉強方法」といった幅広く様々な内容のお話を聴くことができ、大変有意義でした。

その中でも一番良かった点は「司法試験」に関する概要を知ることができたことです。「司法試験」という試験を過去の試験情報に基づいて客観的に知ることができました。1. 難関といわれる試験の時間的、物理的な制約について、2. 採点者の採点基準がどのようなものか、3. どのようなことをロースクールで学べば、合格できるのかといった具体的なビジョンを示すことで、「司法試験」をより身近に感じ、学習意欲の向上にもつながりました。このキャラバンに参加したことで、法科大学院制度について、深く理解し、これからの進路選択の大きな判断資料になったように感じました。

兵庫会場

◆来場者①

「法科大学院がわかる会」へ参加したのは、大学卒業後の進路選択の指針を得るためでした。法律家として働くことを選ぶとしても、他の道を選ぶことになったとしても、法律家の方々からお話を聞けることは大きなチャンスだと思いました。特に、個別懇談会で現役の法律家と直接会話できることに惹かれ、この会へ足を運びました。

会場では実際に、弁護士の方と一対一でお話させていただきました。私が仕事をする上での葛藤などについて伺うと、「非常に悩むこともあり、思い通りにいかないことの方が多い。それでも、依頼者のために最善の解決策を見つけることが使命であり、面白さでもある。裁判で敗訴したとしても、依頼者から『ありがとう』と言ってもらえる弁護士が良い弁護士だ」と答えてくださり、弁護士という仕事の奥深さを感じました。また、私が進路選択に悩んでいることを話すと、弁護士以外の職業についても、弁護士の視点からどのような意義を感じているかというお話をいただき、進路選択の大きな指針となりました。弁護士の方と直接お話できたことは、単に仕事内容を知るだけでなく、仕事の醍醐味や他の職業との差異までも感じられる、貴重な経験でした。

法律家になることや法科大学院へ進学することを考えるにあたっては、近年の弁護士就職難といった問題が思い起こされ、こうした方向へ進むことにためらいも感じます。しかし、講演などで、「法曹や法科大学院修了生が活躍できる分野はまだまだ残っているし、実際に

新しい形で活躍している人も多い。これから開拓していくことも必要である」といったお話を様々な方がしており、法律家の未来は決して行き詰まってはいると考えるようになりました。これから、法科大学院進学も十分な選択肢として考えながら、今後の進路を選択していこうと思います。

◆来場者②

私は将来、法律関係の仕事に就きたく院に行こうか迷っていました。院に行くことへのリスクや学費、本当に院に行くことに意味があるのかと、悩めば悩むほど自分の夢が遠のいていきそうで、日々憂鬱でした。そんな時、ゼミの先生から「法科大学院がわかる会」のチラシをいただきました。神戸という学校から近いところで開催されており、院のことを実際活躍なさっている専門家の方や教授のお話を聞けるのは、なかなかない機会だったのもあってどのコンテンツにも興味を持ちました。パソコンで調べるよりも、実際お話を耳を傾けるほうが知らない情報を聞けるのを楽しみにもしていました。

どのようなところがよかったかと申しますと、大きく纏めて2点あります。まず、院を目指して法律関係の仕事をごなしたい人にとって教授方や各専門家の方々のお話や情報が充実した資料はとても参考になりました。自然とわかりやすく頭に入り、理解出来、より院に行くにあたっての決心を固められたように思います。特に経済法の世界にこの人ありと有名な根岸先生の法科大学院の教育の話はその学生への熱い思いに、感銘を受けました。自分自身の力だけでなく、法科大学院の先生方や生徒達の力添えで将来を築きあげるのだと、まだわからぬ自分の未来への期待とそのための勉強へのやる気が出てきました。

次に、各専門家の方々との個人相談です。時間がもうけられていて、他の人の話を聞いて終わってしまうこともありましたが、それも自分にとってはいい経験だったと思います。様々な分野で活躍されている方にお話を伺うだけで、四方八方から違う着目点からの意見が飛び交うのはおもしろかったですし、勉強にもなりました。専門家の方も熱心に答えてくださるので、後から後から質問が出てきて話がつきませんでした。法科大学院での生活や勉強へのモチベーションの維持の仕方等、一個人として法科大学院での過程を通った方としての応答はとても参考になりました。詳しく教えてくださって、感謝の念に絶えませんでした。

今回の会を受けて、私は先程申しましたように、法科大学院に進むことを決心しました。そのために日々精進していく心積もりですが、その会が私に法科大学院進学への目標を与えてくれたひとつの要因として、私の中でずっと残ると思います。実際のところ、現在、弁護士や司法書士はその試験の難しさだけでなく、成った後の就活でも困難の色を濃くしています。けれど、今の大学にはないものを自分の夢のために、法科大学院で学びたいです。

最後にこのような会が今年開かれたことを感謝しております。きっと、まだ法科大学院のことをよく知らない人やそうでない人にとっては、貴重な体験だったと思います。機会を与

えてくださって、ありがとうございました。

九州大学

◆来場者①

「法科大学院がわかる会」ではロースクールで学ぶ魅力やロースクールでどのようなことを学ぶのかについての紹介がありました。とりわけ、ロースクールで学ぶスキルやメリットと実際に法曹実務家となって必要となるスキルや役に立ったことが密接に関連しあっていることを確認することができた点、大変有意義でありました。例えば、ロースクールでは大学の講義と違い、教官と学生の間で対話がなされることが多いと聞きました。この結果生徒のコミュニケーション能力が向上し、法曹となった後、社会で即戦力として起用できるという点はロースクールの大きな利点の一つであると思います。また、多くの実務家の先生とのつながりを持つことができるということもロースクールと法曹実務家が密接に関連しあっていることの証左であると思います。

しかし、本企画自体が法曹やロースクールという法学的な内容が色濃いために実際参加された方々のほとんどが法学部生であったように感じます。ロースクールは既習コースだけでなく法律を学んだことのない人にも未修コースが設けられていることを考えれば、ぜひ理系などの他学部にも多く参加してほしいものでありました。次の機会でロースクールや法曹の魅力を伝える企画が催されるときはぜひ他学部の方にもその情報が伝わるようにし、彼らが来やすい環境を整えるべきではないかと思います。

◆来場者②

私は今回の九州の複数の大学院により開催された法科大学院の説明会に参加して次のような感想を抱きます。

第1に、この説明会は普段の学校生活を送る上で関わるものが皆無と言っていい弁護士の先生方から実務をはじめとして学生時代をどのように過ごしたか、など多岐にわたるお話を伺うことができた貴重な機会だったと思います。その点において今回の懇親会は自分にとって非常に有意義な時間だったと感じます。

第2に、この説明会に参加することによって自分なりに調べたりして知識を得ていたものの実情を把握していなかった法科大学院制度に関してより深く学ぶことができたと思います。法科大学院ではどのような勉強をするかをはじめとし、法科大学院に入学することによるメリット、デメリットに関してもわかりやすく説明を受けることにより、これから法科大学院を目指すかどうかを決断する際の重要な判断材料になったと感じます。

以上に述べたように法科大学院への入学を選択肢として視野に入れている人にとってはこの説明会は意義あるものであると感じますので、これからも是非続けていってほしいと思います。今回はこのような機会を与えて頂きありがとうございました。

広島会場

◆来場者①

今回、私が「法科大学院が分かる会」に参加したのは、サークルの先輩に勧められたことがきっかけでした。もともと法科大学院には学部に入學した当初から興味がありました が、実態はほとんど知りませんでした。しかし、今回参加したことで、法科大学院の実態 や魅力などを知ることができました。色々な方々の話を聞いて、自分が特に法科大学院に 対して感じた魅力は「同じ目標を持った仲間と切磋琢磨できる」ということです。現在、 法学部 2 年の私は学友に恵まれ、日々楽しく大学で勉強をしています。しかし、それぞれの進路は異なるため、将来法曹を目指す自分にとってはどこか物足りなく感じていました。法科大学院に行けば、法曹という同じ目標を持った仲間とともに、議論をしたり、教え合ったりしながら勉強することができるということを知り、それだけで十分行く価値があると強く感じました。また、弁護士、検察官、裁判官の方々の話を聞いて、活動領域の広さや社会正義の実現という大義など法曹という職業の魅力を再認識しました。将来自分も法曹となり、社会に貢献するために今後は、法科大学院という進路を意識して勉強していきたいと思います。

◆来場者②

私は今大学 3 回生でいずれは法曹の世界に入りたいと思っており、ロースクールの受験に興味があります。ですがロースクールとはいまいちどのようなところか分かっておらず受験に不安を抱えていました。そこで、この法科大学院が分かる会に参加しました。

説明会ではロースクールで現在学ばれている学生の方や、司法試験に合格して司法修習を受けている方、そのほか現役の法曹三者の方々など様々な法曹界を背負う方達のそれぞれから見たロースクールのあり方についてお話を聞くことができました。

私はこの説明会を聞いて、ロースクールはやはり甘くはないが、その中で目的を同一とする仲間たちと共に学ぶことができ、司法試験に合格した後の準備時間でもあることを、学びました。ロースクールで法律知識の原理原則をしっかりと学ぶことが一番の司法試験合格への近道だと思いました。

また、今回の説明会では実務家の方々の現場での考えを直接聞くことができ、非常にため

になるお話ばかりでした。もう少し早くにこのような説明会に参加できていればと後悔しました。

東京会場 2

◆来場者①

学校説明会では聞けないような、法科大学院に対する本音を、教員の視点、実務家の視点から聞いたことは有益だった。

大学の周りの環境を見ていると、いかにも予備試験のルートの方が良いという風潮があるが、法科大学院に進むことも全然視野に入れないのはもったいないなと感じた。

◆来場者②

学部1年生ということもあり、LS のことに関してよく知らない状態ではありましたが、今回のシンポジウムにより、法科大学院についての現象をよく理解することができました。私にとってかなり価値のある物（ママ）となりました。有り難うございました。